

エノキやクヌギを植樹する参加者「グラウンドワーク三島提供」



## 旧狩野川の原風景を

三島・沼津市境河畔林

### GW三島が保全活動

狩野川の旧本流で三島・沼津市境を流れる松毛川(沼津市側呼称・灰塚川)の河畔林保全活動に三島市のNPO法人グラウンドワーク三島(GW三島)が

取り組んでいる。

松毛川の川岸にはエノキやケヤキの河畔林が自然護岸を形作る狩野川の原風景が残っていた。しかし、竹が繁茂したり、ごみが捨てられたりでこの原風景が失われつつあった。

GW三島は2005年ごろから三島市側で保全活動を続けてきたが、一段落したことから昨年11月から沼津市側でも保全活動を始めていた。

21、22両日には、沼津市側で大学生やボランティアも含め延べ約40人が生い茂った竹を伐採したり、高さ70、80センチのエノキやクヌギの苗木約30本を植樹したりした。トタン板やペットボトル、空き缶、農業用シートなど2トントラック2台分のゴミを回収。伐採した竹は肥料にするためにその場で粉碎され、高さ約1メートルのチップの山が3、4個できた。

保全活動は来年度以降も続ける。

【石川宏】